

## 【補足資料】

端末プラットフォーム技術の研究開発にあたっては、下図に含まれる3つの要素技術の研究開発から構成され、それぞれの担当は以下の通りです。

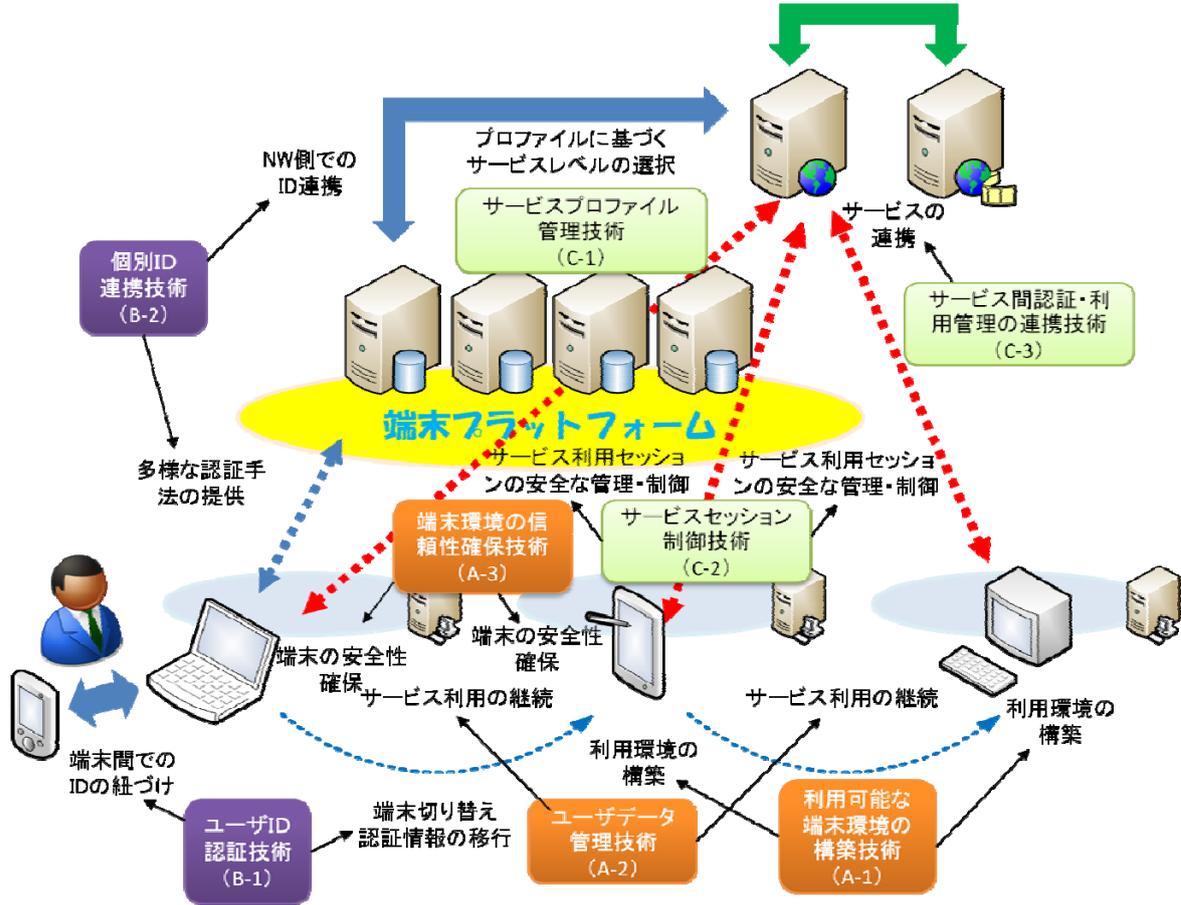


図1 端末プラットフォーム技術の研究開発における要素技術

### A. 端末環境の構築技術

#### (A-1) 利用可能な端末環境を構築する技術

同一事業者に属する別の端末間において、同じサービスを継続的に受けるために必要な、「端末までのネットワーク能力を管理しサービスを継続させる技術」(富士通)【今回の成果】②の技術に活用。

#### (A-2) ユーザデータ管理技術

多岐に渡る端末およびサービスを対象とした、「端末環境の移行を安全に実現する技術」を確立。ユーザデータの継承や端末に合わせた変換、アプリケーションのセットアップを含むサービスの移行/切替技術 (OKI ネットワークス) 【今回の成果】①②の技術に活用。

#### (A-3) 端末環境の信頼性確保技術

共用端末など不特定多数が利用する端末を使用する前に、なりすましや、マルウェアの混入を検出する、「利用者にとって危険な端末でないことを確認する技術」(日立)【今回の成果】①の技術に活用。

## B. 連携技術

### (B-1) ユーザ ID 認証技術

複数端末間でサービス継続を実現するための「安全に端末間で認証済情報を引継ぐ、ID 連携技術」(日立)【今回の成果】②③の技術に活用。

### (B-2) 個別 ID 連携技術

認証の利便性と安全性の向上を目的とした、「各サービスに対して統一的な認証を提供可能な個別 ID 連携技術」(KDDI 研)【今回の成果】②③の技術に活用。

## C. サービスの管理及び連携技術

### (C-1) サービスプロファイル管理技術

サービス毎に必要な端末の能力やネットワーク品質と、実際に利用する端末、ネットワーク環境から、「推奨するサービスプロファイルを確定し、サービスに対して必要なパラメータセットを適用する技術」(OKI ネットワークス)【今回の成果】②③の技術に活用。

### (C-2) サービスセッション制御技術

異なる事業者に属する別の端末間において、同じサービスを継続的に受けるために必要な、「複数の事業者間で情報を的確に引き継ぐ技術」(富士通)【今回の成果】②の技術に活用

### (C-3) サービス間認証・利用管理の連携技術

異なる事業者が提供するサービス間において、利用者の匿名性を保ったまま、サービス間で安全な連携を実現する技術 (KDDI 研)【今回の成果】③の技術に活用